

みずほマーケット・トピック(2019 年 11 月 29 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料

1. 「本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照くださいませ。

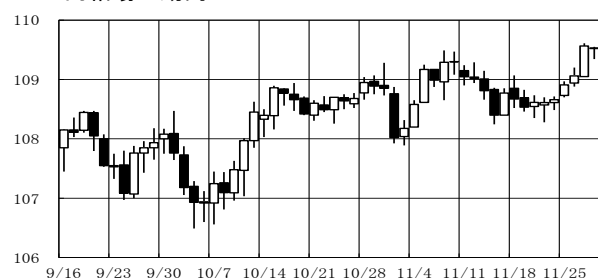
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・ 今週のドル/円相場はドル高の展開。週初 25 日に 108 円台後半でオープンしたドル/円は、米中協議で知的財産の侵害に係る交渉に進展があり、株価が先週末から堅調に推移していることも追い風となり、109 円を上抜けた。26 日は引き続き米中協議への期待感が強く、その後は住宅関連指標が予想以上となるが、米 11 月消費者信頼指数の結果が個人消費に陰りが見えるものと懸念され、ドル/円は 109 円付近で一進一退の推移が続いた。27 日は、米 7~9 月期 GDP(2 次速報)において、いくつかの指標が上方改定されたことに加えて、米 10 月耐久財受注もプラス成長となり、ドル買い地合となったことで 109 円台前半まで上昇した。その後、米 10 月個人支出が予想と一致するも、個人所得は横ばいで、10 月の中古住宅販売仮契約は予想を下回り、上げは一服。しかし、英国総選挙で与党の保守党が勝利するとの予想が公表されたことを受け上昇したポンド/円に連れ高となり、その後も円売りが継続したことから、一時週高値の 109.61 円をつけた。28 日は、トランプ米大統領が香港人権法案に署名したとの報道や北朝鮮のミサイル発射の報道に、一時 109 円台前半まで下落。その後、米国感謝祭で取引は閑散ながら、米国での香港法案成立の報道以降、人民元売り・ドル買いが進み、じり高で推移した。本日は 109 円台半ばでの推移が続いている。
- ・ 今週のユーロ/ドル相場は小幅にドル高の展開。週初 18 日に 1.10 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、独 11 月 Ifo 景況感指数が上昇し、市場予想通り景気底打ちの兆しとの見方が強まりユーロ/ドルは上昇したが、米中協議進展を期待するドル買いに上値は重く、1.10 付近の推移が続いた。26 日は引き続き米中協議進展の期待感が強く、一時ドル買いが優勢であったが、株高を受けたユーロ/円の買いに加え、ドル買いが一服し、1.10 台前半を推移した。27 日は米 7~9 月期 GDP、10 月個人消費、10 月耐久財受注の結果を受けたドル買いに一時週安値の 1.0993 をつけたが、英国総選挙に対する期待感から上昇したユーロ/円に連れ高となり、1.10 を回復した。28 日は前日に続き、英国の総選挙予想の報道に上昇するも、米国休場の影響で小幅な推移が続いた。本日は 1.10 前半での推移が続いている。

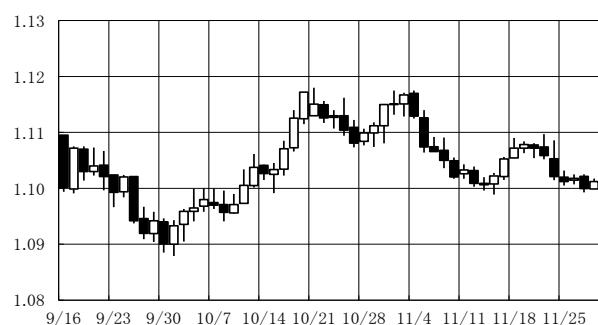
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		11/22(Fri)	11/25(Mon)	11/26(Tue)	11/27(Wed)	11/28(Thu)
ドル/円	東京9:00	108.58	108.70	108.99	109.10	109.38
	High	108.73	108.98	109.20	109.61	109.58
	Low	108.48	108.69	108.88	109.05	109.34
	NY 17:00	108.66	108.91	109.06	109.57	109.53
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1065	1.1022	1.1011	1.1022	1.1005
	High	1.1087	1.1032	1.1026	1.1025	1.1018
	Low	1.1015	1.1004	1.1007	1.0993	1.0999
	NY 17:00	1.1021	1.1012	1.1018	1.1000	1.1012
ユーロ/円	東京9:00	120.15	119.83	120.02	120.24	120.38
	High	120.48	120.10	120.25	120.59	120.58
	Low	119.69	119.79	119.95	120.07	120.34
	NY 17:00	119.72	119.94	120.22	120.47	120.56
日経平均株価		23,112.88	23,292.81	23,373.32	23,437.77	23,409.14
TOPIX		1,691.34	1,702.96	1,705.71	1,710.98	1,708.06
NYダウ工業株30種平均		27,875.62	28,066.47	28,121.68	28,164.00	-
NASDAQ		8,519.89	8,632.49	8,647.93	8,705.18	-
日本10年債		-0.09%	-0.09%	-0.10%	-0.11%	-0.09%
米国10年債		1.77%	1.75%	1.74%	1.77%	-
原油価格(WTI)		57.77	58.01	58.41	58.11	-
金(NY)		1,463.60	1,456.90	1,460.30	1,453.40	-

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・米国では、12月2日(火)と4(木)に11月ISM製造業/非製造業景気指数が発表される。前回10月の結果はそれぞれ48.3、54.7であった。製造業指数については、景気の拡大と縮小の分かれ目となる50を3か月連続で下回っており、詳細を見ると、輸出受注については、50.4と改善の兆しを見せ、唯一50を上回るサブ指数となったものの、輸入が45.3と10年ぶりの低水準となったほか、生産指数も46.2と4か月連続で減速している。一方、非製造業指数は市場予想を上回る結果で、雇用、受注、景況などのサブ指数が上昇を主導した。しかしながら、新規輸出受注は50.0と直近2年間で最低の水準であったほか、輸入についても48.5と低調な結果で、米中貿易協議の長期化を背景とした外需の弱さを示唆する結果となった。なお、ブルームバーグは、11月のISM製造業/非製造業景気指数をそれぞれ49.5、54.5と予測しており、前月から横ばいなし、緩やかな改善を見込んでいる。FRBは今年に入り、製造業の不振などを背景に3度にわたり利下げを実施したが、米国株式市場では今日、主要3株価指数が断続的に過去最高値を更新する状況が続く。他方で、パウエルFRB議長が今週25日の講演にて現行の金融政策につき、「経済を巡る今後の情報が当局の見通しにおおむね合致した状況が続けば、金融政策の現行のスタンスは適切」と述べており、前回のFOMC会合時から引き続き金融政策の据え置きを示唆している。かかる中、本指標の結果を含め、パウエル議長の言うところのFRBの見通しを短期的に大きく変えうることがない限り、年内にこれ以上の緩和に着手する見込みは低そうだ。その他、来週は連銀総裁等の講演の予定はないものの、各種主要経済指標の発表を控えており、来月2日(月)には、11月製造業PMI、4日(水)には、11月非製造業PMI、5日(木)には10月貿易統計、6日(金)には、11月雇用統計が発表される。

	本 邦	海 外
11月29日(金)	・10月完全失業率 ・10月有効求人倍率	・ユーロ圏10月失業率 ・ユーロ圏11月CPI(速報) ・仏7～9月期GDP(確報)
12月2日(月)	・11月製造業PMI(確報) ・7～9月期設備投資	・米11月ISM製造業景気指数 ・米11月製造業PMI(確報) ・ユーロ圏11月製造業PMI
3日(火)	・11月マネタリーベース	・11月ユーロ圏PPI
4日(水)	・11月サービス業PMI(確報)	・米11月ISM非製造業指数 ・米11月非製造業PMI(確報) ・ユーロ圏11月サービス業PMI
5日(木)	—————	・米10月貿易収支 ・米10月製造業受注 ・ユーロ圏7～9月期GDP(速報)
6日(金)	・10月毎月勤労統計 ・10月家計支出	・米11月失業率 ・米11月非農業部門雇用者数変化

【当面の主要行事日程(2019年12月～)】

ECB 政策理事会(12月12日、1月23日、3月12日)
 日銀金融政策決定会合(12月18～19日、1月20～21日、3月18～19日)
 米FOMC(12月10～11日、1月28～29日、3月17～18日)

市場営業部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2019年11月26日	円安リスクの点検～「ツケ」が怖い2020年～
2019年11月25日	名目実効為替相場「NEER」で読む2019年のドル相場
2019年11月22日	週末版(ドラギ元総裁 最後のECB政策理事会議事要旨～「結束 (unity)」と財政政策～)
2019年11月20日	「ドル化した世界」で進む「金融政策の一本化」
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向 (2019年10月分)
2019年11月19日	ドイツは底打ちしたのか?～リセッション回避も残る不安～
2019年11月18日	「株価の崩」と「予防的緩和」について考える
2019年11月15日	週末版(ラガルド体制の「overhaul (刷新)」ミッションの行方～総裁会見と投票方式について～)
2019年11月14日	欧州の「弱さ」源泉～輸出拠点が裏目にたドイツ～
2019年11月13日	円高予想の誤算と「ドル化した世界」という悩み
2019年11月12日	動かない相場の背景にある「円の不人気」
2019年11月11日	「公的デジタル通貨 vs. リブラ」の様相に
2019年11月8日	週末版
2019年11月1日	週末版
2019年10月30日	ラガルド新ECB総裁を巡る3つの論点
2019年10月29日	円安リスクの点検～欧州・中国の復調はあるか?～
2019年10月28日	ドラギ総裁最後のECB理事会～危機の「生き字引」～
2019年10月25日	週末版
2019年10月24日	またも史上最小値幅～体感「5円」以下という異例～
2019年10月23日	「リブラ」阻止で一致するG20～サッカーバグ証言を前に～
2019年10月21日	思い出したい「10月31日」の経緯～次に起こることは～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向 (2019年9月分)
2019年10月18日	週末版(2度目の離脱協定案合意～3つの論点を整理～)
2019年10月16日	FRBのTB購入を受けて～欲しかった「ずる賢さ」～
2019年10月11日	週末版 (ECB政策理事会議事要旨を受けて～議論紛糾の読み方、議事要旨としては秀逸～)
2019年10月10日	円相場の需給環境について～縮小均衡～
2019年10月9日	FRBの資産購入再開と懐かしのソロスチャート
2019年10月8日	揺らぐリブラ計画～初のメンバー脱退表明を受けて～
2019年10月7日	米9月雇用統計を受けて～「思ったより悪くない」の危うさ～
2019年10月4日	週末版 (製造業から非製造業への波及は始まったのか?ISM景気指数の悪化を受けて～)
2019年10月3日	ユーロ圏の物価情勢の現状と展望～日本化の過渡期?～
2019年10月2日	ISM製造業景気指数の「底」は見えそうか?
2019年9月27日	週末版 (三度起こった「ドイツの乱」～ラウデンシュレーガーECB理事辞任の読み方～)
2019年9月26日	円安リスクの点検～財政政策というアップサイドリスク～
2019年9月25日	為替相場の現状を概観する～REERを通して見えること～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向 (2019年8月分)
2019年9月24日	「羊頭狗肉」化するマイナス金利政策
2019年9月20日	週末版 (日米金融政策決定会合を受けて～9月乗り切るも日銀の難局は続く～)
2019年9月17日	「原油高 & 円安」が重荷になる日本経済
2019年9月13日	週末版 (ECB政策理事会レビュー～出尽くし懸念強まるパッケージ緩和～)
2019年9月11日	均衡イメージが変わらない円の基礎的需給環境
2019年9月10日	日銀会合レビュー～9月の一手と利下げの行方～
2019年9月6日	週末版 (ECB政策理事会レビュー～APP再開は困難だが、露払いはいしたいところ～)
2019年9月5日	ブレグジットを巡る論点整理～ポンド/ドルは1.20割れ定着か～
2019年9月4日	米企業心理とドル相場の関係～ISM悪化を受けて～
2019年9月3日	リブラを全否定したメルシュ講演～不安はどこに～
2019年9月2日	消えない米国のドル売り介入観測について～諸刃の剣～
2019年8月30日	週末版
2019年8月29日	ユーロ圏投資ファンド統計に見るポートフォリオリバランス効果
2019年8月27日	円安リスクの点検～警戒すべきトランプ減税第二弾～
2019年8月26日	円高・ドル高という地合い～105円割れを受けて～
2019年8月23日	週末版 (ECB政策理事会議事要旨を受けて～9月のパッケージ緩和が濃厚に?～)
2019年8月22日	FOMC議事要旨を受けて～「調整」の誘惑、日銀の経験～
2019年8月21日	ドイツのISバランスは遂に変わるのか?
2019年8月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向 (2019年7月分)
2019年8月19日	YCC、捨てる日銀と拾うECB
2019年8月16日	週末版 (2019年上半期の対米証券投資について～下期以降の景色は大きく変わりそう～)
2019年8月15日	ドイツに引きさらわれるユーロ圏経済
2019年8月14日	中国の「次の一手」として米国債売却はあるのか?
2019年8月13日	ドル高止まりによる引き締め効果～利上げ17回分?～
2019年8月9日	週末版
2019年8月6日	遂に突破した「1ドル=7.0円」～対抗措置としての元安～
2019年8月5日	米7月雇用統計を受けて～趨勢的な鈍化は明らか～
2019年8月2日	週末版 (何の意味もなかったパウエル議長の失言～トランプ関税とインフレ停滞も利下げの理由に～)
2019年8月1日	FOMCを終えて～「1歩譲れば100歩求める」～
2019年7月31日	日銀金融政策決定会合～流行りの「予防的緩和」～
2019年7月30日	円安リスクの点検～英の再国民投票復活などがリスク～
2019年7月29日	ECB政策理事会レビュー～見どころの整理～
2019年7月26日	週末版
2019年7月25日	リブラと金融政策～新興国と信用創造に対する影響～
2019年7月24日	「利下げに囲まれる日銀」と「通貨政策化が進む世界」
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向 (2019年6月分)
2019年7月22日	ECB政策理事会レビュー～「目標見直し」は大事業～
2019年7月19日	週末版(実質実効為替相場の現状と展望～「ドルは過大評価」とのIMF評価を受けて～)
2019年7月18日	本邦家計部門の金融リテラシーは低いのか?
2019年7月17日	欧米貿易摩擦こそ正当な貿易摩擦という考え方
2019年7月16日	株価を見なくなったドル/円相場と追い込まれる日銀
2019年7月12日	週末版
2019年7月5日	週末版
2019年7月3日	ラガルドECB総裁就任の読み方
2019年7月2日	日銀短観の読み方～「底入れ」は確認できず～
2019年7月1日	大阪G20を終えて～円相場を駆動するのは株価ではなく金利～
2019年6月28日	週末版
2019年6月26日	円安リスクの点検～大統領選前にトランプは動くか～
2019年6月25日	対外資産・負債残高の近況～令和で経験する大きな変化～
2019年6月24日	利下げ期待とドル/円相場の関係～「98年型利下げ」としても～
2019年6月21日	週末版 (日銀金融政策決定会合を終えて～「ドル高の修正」という大きな潮流～)
2019年6月20日	FOMCを終えて～「鏡に映った自分」に怒り続ける大統領～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向 (2019年5月分)
2019年6月19日	為替市場と金利市場の期待格差について
2019年6月14日	週末版 (日銀金融政策決定会合レビュー～サプライズがあるとすれば・・・～)